

みなと元町

タウンニュース

No.
327

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

神戸の都心のさらなる魅力と にぎわいの創出をめざして

神戸市都市局長 今西 正男



なご、都心の回遊性を向上させ、都心のさらなるにぎわいを形成するためには非常に重要な役割を担う地域です。

近年の元町はかつての商業・業務地域から商業と住居が混在するまちへと様相が変わりつつあります。その中で、栄町通・神戸元町商店街・ハーバーロードの景観形成市民協定や平成14年3月に策定された「みなと元町タウン憲章」の運用など、地域の皆様の日頃のまちづくり活動により、ミナト神戸を象徴する元町らしい「クラシカルモダン」な雰囲気を持っています。そんな元町だからこそ、様々な人が集い、活動し、さらなる魅力やにぎわいの創出に繋がっているのではないのでしょうか。そして、神戸の都心の中心地である元町の活性化は、都心全体のさらなる活性化に繋がっていくものと思います。

さて、元町商店街4丁目にある「こうべまちづくり会館」は、住民主体のまちづくり活動を支援する拠点として平成5年11月にオープンして以来、25年が経過し、この度、改修工事のため平成31年4月1日から臨時休館しておりましたが、令和元年10月1日から再オープンいたしました。工事期間中はご迷惑をおかけしましたが、1階に神戸元町みなと古書店、4階にまちづくりラボ、5階にワークスペースを

設置するなど、新たな賑わいを創出し、より地域の皆様に親しまれ、気軽に立ち寄っていただける施設としてリニューアルいたしましたので、引き続き地域のご利用いただきますようお願いいたします。

みなと元町タウン協議会のエリアは広く、各地域が多彩な個性を持っていますが、それぞれが個性を発揮し、調和することで、元町らしい魅力とにぎわいが溢れるまちとなっていると感じております。

今後も、日頃からまちづくり活動に取り組んでいただいている皆様と手を取り合いながら、元町らしいおしゃれでモダンな雰囲気があり、さらなる魅力とにぎわいの創出されるまちづくりに取り組んでいきたいと思いますので、引き続き本市の都市行政にお力添え賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のより一層のご活躍とご発展を祈念いたします。



こうべまちづくり会館4階 まちづくりラボ

「元町・夢街道」

書店の話(28)

海文堂②

岩田 照彦

岡田一雄は昭和二十三年、海文堂を法人化すると昭和二十八年五月、東京に出版部を開設。昭和三十三年六月、海文堂出版(株)として独立させ、昭和四十二年七月、小売部門を(株)海文堂書店に改組する。小売の販路拡大のため昭和四十年九月には同業五社と三宮地下街にコーベックスを開業、(株)海文堂としても昭和四三年にはメトロ神戸店、四四年には貿易センタービル店を開き、販売網を拡大していく。

東京の出版と神戸の販売、二つの拠点体制を軌道に乗せた矢先の昭和四十八年五月、岡田一雄は他界する。出版を長男の吉弘が、書店は娘の悦子と二年前に結婚した島田誠が大企業の経理マンから転身、悦子の反対を押し切って引き継いだ。死の床にある義父の願いだけでなく、芸術や文化に触れる仕事への入り口とみた島田の書店主への決断だった。

書店の経営方針は一転する。島田は社長室兼応接室をギャラリーに改装、「現代の版画家二十人展」を皮切りに、「ビュッフェのすべて展」を経て、旧出版部の建物を書店売場とギャラリーに改築、機能を充実させた。音楽の世界では、教育会館を会場に「中世ルネサンス音楽の夕べ」、サロンコンサート「モーツアルトの夕べ」などを主催する。

昭和五十一年、小林良宣が店長につくと、郷土出版物、文芸書限定フェア「V.I.K.I.N.G.」の乗船者たち、と独自のフェアで書店文化を創造した。一方、読者用には「週刊神戸読書アラカルト」を作成、来店者をひきつける。紺と白字の帆船カバー導入もこの時期だ。

昭和五十五年六月、新聞が「本の値引き実現、秋にも価格自由化」と報じたのをうけ島田は、月刊アラカルト紙上で詳細に説明した。定価表示のない書籍をどうして販売するのか。島田は「本の文化的特質を無視した暴論」とし、橋口・公正取引委員長著作の美術エッセイを仕入れ価格で販売する。この対応に新聞紙上で橋口は「本来、小売書店が値付けするのが望ましい」とこたえているが、これを機に本の再販騒動は遠ざかっていく。

ブックフェアを小刻みに展開する一方、「海の浪漫展、解体船フェア」で書籍とともに船具や備品の即売など、海文堂ならではのイベントは広がった。社内の情報伝達には日刊社内通信「C.A.B.I.N.」できめ細かく対応した。

店舗の改装で広くなったギャラリーでは創業六十年記念企画美術展を開催、絵画への取り組みは、基金抛出者の目にとまるまで広がった。島田は平成三年「亀井純子文化基金」を開設、こうした活動で翌四年、島田は、神戸市文化奨励賞を受賞する。

平成七年二月に発生した阪神淡路大震災。島田は、「アート・エイド・神戸」を立ち上げ、芸術関係者の支援をはじめ、平成八年、海文堂書店はメセナ奨励賞に選ばれた。

平成十二年九月、島田は海文堂を退職、岡田吉弘が書店社長の座を引き継ぐことになる。

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 11月

◆神戸元町商店街連合会 TEL391-0831

ジャパン・クラフトチーズEXPO
11月30日(土)12月1日(日)11時～19時
元町通3丁目
まちむら元気交流会 12月1日(日)11時～16時
元町通4丁目～6丁目

◆元町1番街商店街振興組合 TEL331-7850

水曜市 11月20日(水)11時～19時

◆元町5丁目商店街振興組合 TEL341-6819

FLAMENCO in MOTOMACHI5
11月3日(日)13時～・15時～

◆元町6丁目商店街振興組合 TEL367-5477

メトロク市 11月2日(土)11時～17時
(毎月第1土曜日開催)

◆風月堂ホール(有料) TEL321-5555

もどまち寄席「愚歌亭」 11月10日(日)
桂 福丸 桂 しん吉 桂 かい枝
笑福亭 松枝 笑福亭 伯枝 桂 雀三郎
前売券は10月11日より風月堂で発売

栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は10月11日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(元栄海三丁目協和会)奈良山喬一、(神戸市)川口雄也、(広島銀行)加計正晴、(兵庫県信用組合)古門佑樹・岩田彩希・仲川・亀田、(株)神明 嶋花織、(神明倉庫(株))藤尾憲弘・米澤彩香、(株)イーエスプランニング)大澤・三河、(佐野運輸(株))志賀俊之・末松明、(新光明飾)中川俊・篠原博明・森川進・大森貴美子・西村友博、(佐田野不動産(株))佐田野宏之以上、20名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



編集後記

十月十三日(日)、NPO あいあいネット神戸やJR・OB飯野浩三さんを中心に、「鉄道ファン」の協力を得、クリーン作戦の延長事業として開いた「神戸・西元町D51まつり」は台風予報の合間をぬって無事、終わることができた。この初イベントに十月十六日、ネット上に「神戸市ができた年、新橋と神戸の間に東海道本線が開通したとき、そんな栄光の歴史を辿るとき、何とかなければならない。(中略)土木職のみなさんの奮起に期待します。死にものぐるいで頑張らねば!!!」という神戸市長の声を皮切りに、神戸駅への声が寄せられていく。近くに住みたいと思える、駅にしてください!「神戸駅は、やはり横浜駅に負けたらあかん」久元市長の責任ではなく、過去歴代の市長、行政に問題があったと思います。神戸駅が非神戸的というのは、いつも不思議に思っていました。などなど。

海という名の本屋が消えた (72)

平野義昌

元町通周辺地名の歴史(2)

「神戸村」「二茶屋村」「走水村」の北側に「花熊村」があった。現在の「花隈町」の氏神は「四宮神社」(北隣の中宮村内)。史料では「花隈」「花熊」の他、「鼻熊」「華熊」とも書かれている。地名由来は二説ある。

(1)地形説。太古の海岸線、海に面した小高い丘＝「台地のはし(ハナ)の一段高い所(クマ)」

(2)生田神社起源説。神をクマと読み、神社領＝神内(くまうち)から外れた所

地形説が有力。註1・補註1

1173(承安3)年、平清盛が大輪田泊(おおわだのとまり)に経ヶ島を築造する際、厳島明神を勧請し海上安全を祈願。7神社を創建し弁天様を祀った。その一つが「花隈」の厳島神社。神社の言い伝えでは、戦国時代「花熊城」築城に伴い南(現在の北長狭通6丁目と元町通4丁目の中間あたり)に移設。「爾来屢々社地の移動」があった。註2

生田神社に移されたという説もある。註1

天明年間(1781～89年)に「二茶屋村」庄屋・橋本家が宇治川河口に築港の際、同地に祀った(弁天浜)。以来、「二茶屋村」の氏神社になった。明治になると河口一帯が埋め立てられた(弁天町)。この頃から芸芸の神として花街の女性たちが参詣する。1928(昭和3)年、臨港鉄道建設により栄町通6丁目に移設した。45(昭和20)年3月、神戸大空襲で被災する。10月には仮本殿が建った。48(昭和23)年、神戸中央郵便局拡張のため花隈町に戻った。註2

台地のへり「花熊」は戦さでは重要地点、南北朝で戦場になり、戦国時代には「花熊城」が築かれた。築城年代・人物は二説ある。1567・68(永禄10・11)年頃織田信長の武将・和田惟政説。1574か・76(天正2か4)年頃同じく織田方の荒木村重説。落城は1578(天正6)年、村重が信長に叛き、池田恒興の軍勢に攻め落とされた。このとき近隣の一向宗衆徒が城に立てこもった。村重は毛利家に亡命。恒興は戦功により兵庫津に築城し、「花熊城」は消滅する。現在城跡は公園・駐車場に整備されているが、実際の城郭はもっと広がった。

恒興の曾孫が残す「摂津花熊之城図」(岡山大学池田家文庫所蔵)には、本丸、二の丸、三の丸、天守、周囲に堀、東に侍町と足軽町が5区画、西に町が4区画描かれている。「福原庄六ヶ村・生田村山論絵図」(1719[享保4]年、神戸市立博物館所蔵)では、天守閣の場所に「福德寺」(浄土宗)が建ち、二の丸・三の丸・侍町・足軽町・堀は消えている。註3

〈……字名に土居、射矢の上、御所坂、二の丸、二の丸堀、本丸東の根、本丸の辻、三の丸、高城など城郭にちなむものが残っていた。〉註1

古老は「御幸(みゆき)坂」「狸坂」「地獄坂」などの呼称を伝えている。註4

「福德寺」は建久年間(1190～99年)に奥平野の楠谷(くすだに、現在兵庫区楠谷町)に創建された。寺の言い伝えでは、楠木正成が自害するとき護身の十一面観音を奉納した。天正年間(1573～93年)に住民共々「花隈」に移り、復旧・開拓した。註1

江戸時代、村には線香製造業者が7、8軒あり、江戸に出荷していた。明治になってアメリカ向けの茶箱製作に転じ、「清水線香屋」1軒だけ残った。「清水線香」という地名があり、清水が湧き出していた。

「弁天香」という商品もあった由。註5

線香について、江戸末期の訴訟文書に「摂州八部郡線香屋仲間」(兵庫津、花熊村、二茶屋村、中宮村他)の名が記録されている。原料製造所は再度谷(ふたたびだに、再度山は市街地の後背山)の水車場だった。註4

1872(明治5)年、「花熊村」は「神戸町」と周囲の村と共に「第一区(神戸)」に組み込まれ、「花隈町」に改称。74(明治7)年、新町名「中山手通」になる。94(明治27)年、下山手通6丁目の一部を分割して「花隈町」の名は復活するが、面積は大幅に縮小した。

私の「花隈」のイメージは高級な「花街」である。開港と都市近代化は風俗産業が発生を促す。簡単に書く。1868(明治元)年、外国御用掛・伊藤博文は居留地・兵庫津からの要請と外国人対策で弁天浜に遊郭(福原遊郭)を許可する。71(明治4)年、ここが鉄道敷地になり、湊川の東側(現在の兵庫区福原町)に移転する。遊郭は行政の認可制だが、私娼も増える。遊郭を福原に集めたり、分散させたり、行政の規制が混乱した。三宮や元町にも多数の娼妓店が開業する。77(明治10)年から行政は娼妓(＝遊郭)と芸妓(＝花街)を厳密に分離する。78(明治11)年、再び福原に遊郭が集められた。福原には芸妓も多数おり、遊郭と花街両方の顔を持つ。「花隈」は花街である。財界人、政治家、軍人が最層にした。「検番＝芸妓置屋」(料亭や座敷に芸妓を派遣)――元町に「西検」、花隈に「中検」ができる。註6

別の史料では、75(明治8)年元町通5丁目に「神戸中検番」、6丁目に「神戸新中検番」開業、とある。註7

年代は一致しないが、「中検番」が「中検」、「新中検番」が「西検」と考えていいだろう。「元町」も花街だった。

〈その後――特に明治二十年以降――、元町じたいは純粹な小売商店街となっていくことから、花街としての特色は徐々にうすれていったものと思われる。〈西検〉も明治三十(一八九七)年までは追跡できるものの、その後は不明である。〉註6

「花隈」の「花街」化に関わった人たちがいる。伊藤博文は県令在職時代(知事、1868～1869年)「花隈」(前述の橋本家別邸)に住んだ。伊藤離任後、この家が料亭「吟松亭」にリニューアルすると、元町の芸者置屋や料理屋が「花隈」に移転してきた。註6

そして、裕福な華僑たちが移り住んだ。〈花隈花街の誕生は明治初年清国人貿易商がお妾さんを多くここに置いて粋な町づくりをはじめたことに由来したと説く古老がいた。〉註8

神戸が開港し、西南戦争では輸送基地になり、華僑はビジネスを広げた。居留地と南京町にも近い「花隈」で現地夫人や愛人と暮らした。ところが、1890(明治23)年5月「花隈」で大火災、翌年頃から日清関係が悪化、94(明治27)年日清戦争が勃発する。華僑たちは「花隈」から引き揚げる。残された女性たちは自活のため、料理屋や待合(置屋から芸妓を呼ぶ貸座敷)を開業した。註8

1932(昭和7)年、「神戸又新(ゆうしん)日報」が読者の投票によって「大神戸新八景」――山水美、海浜、展望地、住宅街、繁華街、花街、遊園地、構造美――を選ぶイベントを行った。「花街」部門で「福原」が1位(4638票)、「花隈」は2位(3015票)で、3位

以下を圧倒した。花街にはそれぞれPRの歌＝ご当地ソングがあった。福原には「福原小唄」、花隈「中検小唄」、柳原「柳原ながし」など、観光ガイドブックにも収録されていた。註6

1890(明治23)年1月、城跡近くに神戸名士(財界人・弁護士・医師・文化人ら)の親睦施設「神港倶楽部」が誕生した。会員の社交場であり、講演会、美術品の展示販売、趣味の会など市民にも開放された。96(明治29)年に日本初の活動写真が一般公開され(詳細次回)、99(明治32)年には神戸新聞創刊1周年と松方幸次郎社長就任を祝う会が開かれ、記者たちが文士劇を上演した。註9・補註2

1901(明治34)年、城跡に塔が設置された。〈……昔神戸港務局が正午の時報と船舶からの目印の目標として、花隈城跡の高台に高さ百米もある表時球塔が建てられ、正午になると、その塔に登り切った球が直下に落下し、「ドン」と云う大砲音を出す原始的な時報搭載機であった訳であるが(後略)〉註10

城跡は「ドン山」と呼ばれたが、昭和に入ると「ドン」の球は使われなくなる。私が中学生時代、まだ塔の残骸が立っていた。1969(昭和44)年の公園整備でその姿も消えた。

- 註1 神戸史学会編『新 神戸の町名』神戸新聞総合出版センター、1996年
- 註2 植崎伊■(漢字「水」偏に「聿」、「つ」?)夫「厳島神社」「花隈」(花隈振興会、1971年)所収
- 註3 大國正美『古地図で見る神戸 昔の風景と地名散歩』神戸新聞総合出版センター、2013年
- 註4 酒井立順『花隈古今物語』花隈』所収
- 註5 『故福原会下山人郷土史話シリーズNo.18 明治百年記念号 神戸市内町名由来記(上)』福原源九郎編・発行、1967年
- 註6 加藤政洋『神戸の花街・盛り場考 モダン都市のにぎわい』神戸新聞総合出版センター、2009年
- 註7 日本の近代を語る会編『識る力――神戸元町通で読む70章』ジャパンメモリー、2007年
- 註8 荒尾親成『花隈花柳界誕生記』花隈』所収
- 註9 板倉史明編著『神戸と映画』神戸新聞総合出版センター、2019年
- 註10 木内勇『「ドン山」懐古』花隈』所収
- 補註1 生田神社の由緒では、201(神功皇后元)年に活田長峽国の砂山(いくたながおのくに、いさごやま、現在の布引あたり)に鎮座、799(延暦18)年大洪水で生田の森に移った、とされる。しかし、「移転についてははっきりとした証拠があるわけではない」(註1)。「活田」は丹い田を表す。東は灘の敏馬(みるめ、みぬめ)・原田、北は青谷・春日野、西は布引から諏訪山、花隈と続く丘陵地帯を指す。「長峽」は六甲山系が長い尾を引くように連なっている様を言う。(註5)
- 補註2 当時神戸新聞社には中央で活躍した作家・評論家が勤めていた。なかでも江見水蔭は尾崎紅葉門下で、川上音二郎にも脚本を提供。神戸で公演中だった川上一座も観劇に駆けつけた。松方社長からは「天下を動かす新聞記者が顔にオシロイをぬたかつて芝居のまねをするとは何事だ」と叱られた。(『神戸新聞社七十年史』同社、1968年)



花隈厳島神社

出来事ファイル (No.19-11)

□津波一斉避難訓練実施！

11月5日(火) 10時から、南海トラフ地震で発生が予測される津波に対して一斉避難訓練が行われます。「ひょうご防災ネット」スマホアプリも連携、10時過ぎに、避難を呼びかける緊急速報メール(エリアメール)が携帯電話に届きます。マナーモードにしているも、携帯電話が一斉に鳴りますのでご注意ください。

兵庫県の主催で、神戸市のほか尼崎市、西宮市、芦屋市、明石市など、県内14市1町で同時に実施されます。



■平尾さんから渡辺さんへのバトン…

家業の縁で平尾誠二さんと知り合ったという早駒運輸(株)社長の渡辺真二さん、息子が平尾ラグビー「最後の弟子」という。中1でラグビーをはじめたばかりの息子にパス練習に1時間も付き合い、平尾さん宅では庭の照明灯にタックルさせてもらったことも。兄貴と呼んでいた渡辺真二さんには、平尾さんのひと言がいまも記憶にある「楕円形の行く先は理不尽。人生と一緒にや。それを楽しみな」。

(10月4日・神戸新聞より)



■神戸西元町D51まつり

10月13日(日)、旧相生橋跡に置かれて久しい機関車の存在を広く知ってもらおうと、はじめて「神戸西元町D51まつり」が開かれた。みなと元町タウン協議会のもと、もとまちハーバー懇談会・神戸西元町のD51を守る会・NPOあいあいネットの3組織で構成する神戸西元町D51まつり実行委員会が実施した。

D51に隣接する広場には10時から金魚すくいやスーパーボール、豚まん店に鉄道グッズ店などが開店、子供連れの親子でにぎわうなか、12時からD51前に準備した式場で開会式を開いた。司会役をD51まつり開催を



■秋の交通安全パレード

恒例の「秋の交通安全パレード」が9月21日(土)元町商店街で行われた。きらら広場での出発式には元町を代表して奈良山会長も同席、1番街へ向かうパレードにも参加した。元町商店街では来街者のため、商店街のなかは自転車の乗り入れを禁止、商店街に接する道路には案内板を設置するほか、振興組合単位で啓発活動も実施、日夜、事故発生の防止につとめている。



左端に奈良山会長

■西元町がらりランチ散策マップ完成

兵庫県が主宰する神戸地域ビジョン委員会のなかの「みなと・元町おしゃれグループ」が、このほど西元町がらりランチ散策マップを作成、広く配布した。界限を含め元町商店街の4～6丁目間の店舗を中心に、手軽に立ち寄れる18の店舗をピックアップ、席数、営業時間、価格、定休日、人気メニューなどをまとめ「西元町がらりランチ散策マップ」としてまとめた。



■まちづくり会館 再開

協議会の役員会会場としてお世話になってきたまちづくり会館が、10月1日、リニューアルオープンした。1階には市内古書店7店舗が協働で「神戸元町みなと古書店」を開業、知識の拠点を構えたほか、4階には人材交流を目的にしたまちづくりラボを開設、5階には仕切りのあるワークスペースも準備した。再開の式典でタウン協議会の奈良山会長は、新しい会館の門出を祝福した。



「神戸元町みなと古書店」

■神戸東地区グリーン作戦

第1水曜日の10月2日(水)、神戸駅東地域グリーン作戦を実施した。参加したのは奈良山会長以下エスタシオン・デ・神戸の7名、ネットヨタ兵庫(株)22名のほか、元町通7丁目自治会からも地元道路を対象に2名が参加した。



ネットヨタ兵庫株のみなさん



エスタシオン・デ・神戸と元町7丁目自治会チームのみなさん

